

ウラン濃縮工場に係る定期報告書
(平成22年7月報告)

1. 運転状況及び主要な保守状況(平成22年7月分)

		平成22年7月
運 転 状 況	RE-1A	※1
	RE-1B	※2
	RE-1C	※3
	RE-1D	※4
	RE-2A	※5
	RE-2B	生産運転中 ※6
	RE-2C	※7
主要な保守状況		加工施設保安規定に基づく施設定期自主検査 <ul style="list-style-type: none"> ・カスケード設備 ・UF6処理設備 ・均質・ブレンディング設備 ・付着ウラン回収設備 ・気体廃棄物廃棄設備 ・液体廃棄物廃棄設備 ・非常用設備
(備考)		
※1 RE-1A:生産運転停止中(H12. 4. 3～) ※2 RE-1B:生産運転停止中(H14. 12. 19～) ※3 RE-1C:生産運転停止中(H15. 6. 30～) ※4 RE-1D:生産運転停止中(H17. 11. 30～) ※5 RE-2A:生産運転停止中(H18. 11. 30～) ※6 RE-2B:一部カスケード停止(H19. 11. 20～) ※7 RE-2C:生産運転停止中(H20. 2. 12～)		

2. 放射線業務従事者の被ばく状況（平成 年度第 四半期分）

ウラン濃縮施設

	放射線業務従事者数（人）	線量（mSv）区分別放射線業務従事者数（人）					
		5以下 注1）	5を超え 15以下	15を超え 20以下	20を超え 25以下	25を超え 50以下	50を超えるもの
当該四半期							
年度							

その他施設（研究開発棟）

	放射線業務従事者数（人）	線量（mSv）区分別放射線業務従事者数（人）					
		5以下 注1）	5を超え 15以下	15を超え 20以下	20を超え 25以下	25を超え 50以下	50を超えるもの
当該四半期							
年度							

注1）被ばく線量が検出限界未満の放射線業務従事者を含む。

注2）四半期毎の報告月に限り記載する。（年度については第4四半期に限り記載する）

3. 女子の放射線業務従事者の被ばく状況（平成 年度第 四半期分）

ウラン濃縮施設

放射線業務従事者数（人）	3月間の線量（mSv）区分別放射線業務従事者数（人）			
	1以下 注1）	1を超え 2以下	2を超え 5以下	5を超えるもの

その他施設（研究開発棟）

放射線業務従事者数（人）	3月間の線量（mSv）区分別放射線業務従事者数（人）			
	1以下 注1）	1を超え 2以下	2を超え 5以下	5を超えるもの

注1）被ばく線量が検出限界未満の放射線業務従事者を含む。

注2）妊娠不能と診断された者及び妊娠の意思のない旨を書面で申し出た者を除く。

注3）四半期毎の報告月に限り記載する。

4. 放射性物質及びフッ素化合物の放出状況（平成22年7月分）

ウラン濃縮施設

放射性廃棄物等の種類		測定箇所	平均濃度
ウラン	気体	排気口	ND (Bq/cm ³)
	液体	処理水ピット	ND (Bq/cm ³)
フッ素化合物	気体 (HF)	排気口	ND (mg/m ³)
	液体 (F)	処理水ピット	ND (mg/リットル)

その他施設（研究開発棟）

放射性廃棄物等の種類		測定箇所	平均濃度
ウラン	気体	排気口	ND (Bq/cm ³)
	液体	処理水ピット	ND (Bq/cm ³)
フッ素化合物	気体 (HF)	排気口	ND (mg/m ³)
	液体 (F)	処理水ピット	ND (mg/リットル)

(注) NDは、検出限界未満を示す。

5. 放射性廃棄物の保管廃棄量（平成22年7月分）

ウラン濃縮施設

放射性廃棄物の種類	当該期間の保管廃棄量（本）	累積保管廃棄量（本）
放射性固体廃棄物 注1)	0	5,006
放射性液体廃棄物 注2)	0	62
付着ウラン回収に伴い発生する放射性液体廃棄物 注3)	2	4
付着ウラン回収に伴い発生する放射性気体廃棄物 注3)	0	0

その他施設（研究開発棟）

放射性廃棄物の種類	当該期間の保管廃棄量（本）	累積保管廃棄量（本）
放射性固体廃棄物 注1)	24	516
放射性液体廃棄物 注2)	0	0

注1) 200リットルドラム缶換算本数で示す。

注2) 20リットルドラム缶換算本数で示す。

注3) 80kgボンベ換算本数で示す。

6. 核燃料物質の在庫量（平成 年 月末現在）

ウラン濃縮施設

	天然ウラン	濃縮ウラン	劣化ウラン
在庫量			

その他施設（研究開発棟）

	天然ウラン	濃縮ウラン	劣化ウラン
在庫量			

(注) 1. 六フッ化ウランの在庫量をシリンダ本数で示す。

2. 半期毎の報告月に限り記載する。